

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大原中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全教科で伝え合う活動と探究的な学び(じしゃく)の視点を取り入れた授業の一人1回以上の研究・公開授業を実施し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。今後は、生徒が自ら問いを立て、自ら学習を進められる授業への改善を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
思考・判断・表現	物事を筋道立てて考えることに改善の余地がある。そのため、教科等横断的に、筋道立てて考えられるワークシートや振り返りを活用していく。また、伝え合う活動の際に、主張を述べるだけでなく、他者の考えの理由を聞くことの指導を取り入れ、より深い学びの実現を目指す。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度の全国学力・学習状況調査において、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に肯定的に回答した生徒は89%と県平均を大きく上回った。次年度は、「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」において、伝え合う活動の充実と探究的な学び(じしゃく)の視点を取り入れた授業への転換を図りながら、R5年度以上の肯定的な回答を目指す。

① 目 標・策			
	目 標		策
知識・技能	ICTを積極的に活用し、子ども主体の学びを推進しながら、自校の令和5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の結果を昨年度以上にする。	⇒	・子ども主体の学びを通して、すべての教科等で伝え合い活動(*)を取り入れた授業を教科等横断的な視点で展開する。 ・スタディサプリ等の活用を通して、基礎学力の向上を図る。 (*)対面での活動だけでなく、クラウドを利用したICTの活用も含む。
思考・判断・表現	伝え合う授業を工夫しながら、自校の令和5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の結果を昨年度以上にする。	⇒	・全教科等でICTを活用し、伝え合い活動(*)を意識した授業実践を行う。 ・学校行事等の活用・応用する直接体験の場を通して、更なる伸長を図る。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合を昨年度以上にする。	⇒	・ICTを活用し、生徒が、学習の見通しをもって学習に取り組み、学習の振り返りを通して、学習前後の自己のよりよい変容を味わせる授業の工夫を行う。

次年度に向けて
(3月)

目標・策の設定
(4月)

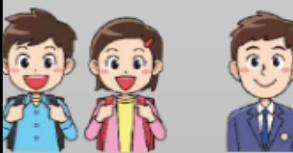
年度末評価

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査において、県平均を大きく上回る結果となった。R4年度と比較し、県平均との差が国語・数学ともに+1pt程度幅が広がった。R5年度さいたま市学習状況調査において、市平均を大きく上回る結果となった。R4年度と比較し、市平均との差が+1pt程度幅が広がった。	A
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査とR5年度さいたま市学習状況調査の両検査において、平均を大きく上回る結果となった。特にR5年度の国語と数学の全国学力・学習状況調査の正答率は、R4年度全国学力・学習状況調査より10%以上向上した。	A
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目において肯定的な回答をしている生徒は、昨年度同様高い結果となった。様々な教科でICTのクラウド機能を活用した授業を展開してきたことで、学習者が自身の成果物や振り返りを確認、変容の自覚を行いやすい環境をつくることができた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

さいたま市学習状況調査

児童生徒の
学力の



② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	【国語】語句に関する問題の正答率が高いが、情報の扱い方に関する問題や漢字の書き取りに課題が見られる。【数学】計算する力、言葉の意味を理解しているかを問う問題の正答率がとても高い。空間図形における決定方法や条件の変化による事柄が成り立たない理由を読み取る力に関しては、伸びる余地がある。【英語】選択式問題の正答率が高いが、短文式の問題は無解答率が高かった。
思考・判断・表現	【国語】資料を読み自分の考えを述べる問題の正答率は高く、資料を比較して工夫点を述べる問題は無解答率が高い。【数学】事柄が成り立つ理由を説明することができる生徒が多いが、データ処理や説明をする問いは無解答率が高い。【英語】「目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかをみる」問題の正答率は高く「自分の考えとその理由を書く」問題は無解答率が高い。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目において肯定的な回答をしている生徒は昨年度同様高い。「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の回答をまとめる活動を行っていましたか」の質問項目も肯定的な回答をしている生徒の割合が高く、主体的に学習に取り組んでいることが推察される。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
	目 標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	国語・数学・社会・理科の全教科で市の平均を大きく上回ることができた。社会科の「世界の様々な地域」においては、市平均より高いもののまだ伸びる余地がある。全教科において、意味の理解を問う問題に対応できるよう、伝え合う活動の充実やじしゃくの授業を通して、より深い理解を促す授業改善を図っていく。
中2	国語・数学・社会・理科の全教科で市の平均を大きく上回ることができた。国語科の「話すこと・聞くこと」、数学科の「関数」、社会科の「世界の様々な地域」においては、まだ伸びる余地がある。理科の「粒子」を柱とする領域においてさいたま市平均より高いもののまだ伸びる余地がある。伝え合う活動の充実とじしゃくの授業を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現を図っていく。
中3	国語・数学・社会・理科で市の平均を大きく上回ることができた。国語科の「条件作文」において、やや課題が見られた。この項目では、与えられたテーマについて自分で考え、意見を述べる力が必要であるため、今後伝え合う活動の充実やじしゃくの授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図っていく。

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大原中】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が二極化している。 <指導上の課題>一問一答形式の問題の正答率が高いが、その根拠を基にした問題に対する知識を徹底できるような時間が足りない。	⇒ ・各教科で得た知識・技能を教科等横断的な視点に立ち、「これって〇〇に似てる！」が出てくる授業づくりの実践【毎時間設定】 ・生徒一人ひとりの気付きを大切に、教科等横断的な視点に立ち、多面的・多角的なアプローチで、個別最適な学びを実現する。【毎時間設定】
思考・判断・表現	<学習上の課題>物事を筋道立てて考えることに改善の余地がある。 <指導上の課題>主張を述べるだけでなく、他者の考えの理由を聞くことがやや不十分であり、深い学びが不十分である。	⇒ ・自ら気付いた事柄について、主体的に他教科の学習内容と関連付け筋道立てて掘り下げていくことで、教科等横断的な視点に立ち、探究的な学び(じしゃく)の視点を取り入れた授業の実施【毎時間設定】 ・自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりすることに力を入れる。【毎時間設定】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	①児童生徒による振り返り ②調査問題の解説 ③振り返りの終了報告	
思考・判断・表現		

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能			
思考・判断・表現			

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	